







ワクチン名	接種間隔	対象者・注意事項
B型肝炎	①-②の間は4週以上あける ①-③の間は20週以上あける	定期：0歳で3回接種 1歳以上でも未接種の場合は、早めに接種することを推奨
	①生直後 ②生後1か月 ③生後6か月	HBs抗原陽性の母親から生まれたHBs抗原陰性の乳児（健康保険適用）
ロタウイルス	生後6週以降、①は生後8週-15週未満を推奨（遅くとも生後14週6日までに開始） 1価ワクチン：①-②は4週以上あける 5価ワクチン：①-②-③は4週以上あける	定期：1価ワクチン 生後6週から6か月（24週）までに完了する  定期：5価ワクチン 生後6週から8か月（32週）までに完了する
肺炎球菌（結合型）（PCV13・15）	・初回接種が生後2か月-6か月：①-②-③の間はそれぞれ27日以上あける、③-④の間は60日以上あけて、1歳から1歳3か月で④を接種 ・初回接種が生後7か月-11か月：①、②の接種後60日以上あけて1歳以降に③ ・初回接種が1歳-生後23か月：①-②の間は60日以上あける ・初回接種が2歳-4歳：①のみ	定期：生後2か月から5歳の誕生日まで 任意：肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高い人
肺炎球菌（PPSV23）	任意：2歳以上 対象者：(1)脾臓摘出した人の肺炎球菌予防（健康保険適用）(2)鎌状赤血球症、脾機能不全、心臓・呼吸器の慢性疾患、腎不全、肝機能障害、糖尿病、慢性髄液漏等の基礎疾患のある人、免疫抑制剤治療予定者（治療開始まで14日以上の余裕のある場合）	
五種混合（DPT-IPV-Hib:ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ・ヒブ） 四種混合（DPT-IPV:ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ） 二種混合（DT:ジフテリア・破傷風） 三種混合（DPT:ジフテリア・百日咳・破傷風）	①-②-③の間はそれぞれ20-56日あける ③-④の間は6か月以上あける （標準は③終了後12-18か月の間）  11歳-13歳未満 二種混合 二種混合の代わりに三種混合ワクチンを接種可（百日咳予防目的）	定期： 1期：生後2か月-7歳半の前日まで（五種混合・四種混合・三種混合+ポリオ） ・五種混合は、2024年4月以降に接種開始の小児に使用 ・二種混合を1期に使用する場合は生後3か月から 2期：11歳-13歳の誕生日前日まで（二種混合）  任意（推奨）：5歳-7歳未満 三種混合ワクチンを追加接種（百日咳予防目的） ポリオワクチンを追加接種（ポリオ予防目的）
ポリオ（IPV）	①-②-③はそれぞれ20-56日あける ③-④は6か月以上あける （標準は③終了後12-18か月の間）	定期：生後2か月-7歳半の前日まで（標準として生後2か月-12か月の間に①-③） 任意（推奨）：⑤ 5歳-7歳未満 ポリオに対する免疫が低下する前の接種を推奨
ヒブ（インフルエンザ菌b型）	・初回接種が生後2か月-6か月：①-②-③の間はそれぞれ27日以上、③-④の間は7か月以上あける。①-③までを12か月までに終了する ・初回接種が生後7か月-11か月：①、②の後は7か月以上あけて③ ・初回接種が1歳-4歳：①のみ	定期：生後2か月-5歳の誕生日まで 任意：リスクのある患者は5歳以上でも接種可能 注意：ヒブは五種混合ワクチンに含まれています
BCG		定期：生後12か月未満 標準的には、生後5か月-8か月

ワクチン名	接種間隔	対象者・注意事項
麻疹・風しん（MR）	①：1歳-2歳の誕生日の前日まで ②：5歳-7歳未満（小学校就学前の1年間）	定期：①1歳、②年長児相当 任意：1歳以降全年齢接種可能 麻疹曝露後や流行地域では、生後6か月以降で接種可能 その場合は接種回数には数えず、①、②は規定通り接種する
水痘	1歳-3歳未満： ①：1歳以降 早期に ②：①から3か月以上あける 3歳以上：①-②の間は4週間以上あける	定期：1歳から3歳の誕生日前日まで 任意：1歳以降全年齢接種可能
おたふくかぜ	①：1歳以降 早期に ②：5歳-7歳未満（小学校就学前の1年間） ①から4週間あければ接種可能	任意：1歳以降全年齢接種可能
日本脳炎	①-②の間は6日以上（-28日）あける ②-③の間は6か月以上あける ④：9歳-13歳未満	定期：1期：3歳から7歳6か月（自治体によっては生後6か月から開始） 2期：9歳以上13歳未満 任意：生後6か月以降全年齢接種可能 2005年5月からの積極的勧奨の差し控えを受け、特定対象者（1995年4月2日から2007年4月1日生まれの人）は、20歳の誕生日前日までは定期接種可能
インフルエンザ	13歳未満：①-②の間は4週（2-4週）あける	任意：生後6か月以上全年齢 定期：65歳以上（成人のスケジュール参照）
新型コロナ	製剤ごとに定められている方法  最新情報は厚生労働省のホームページなどを参照 <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_00184.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_00184.html</a>	年齢によって使用する製剤や投与量が異なる
HPV（ヒトパピローマウイルス）	①-②の間は1か月以上あける ①-③の間は6か月以上あける 標準的な接種ができなかった場合、①-②の間は1か月以上、①-③の間は5か月以上、かつ②-③の間は2か月半以上あける  ①-②の間は2か月以上あける ①-③の間は6か月以上あける 標準的な接種ができなかった場合、①-②の間は1か月以上、②-③の間は3か月以上あける 9価 9-15歳未満：2回でも可、その場合①-②の間は6か月-12か月あける	2価ワクチン 定期：小学校6年から高校1年女性 任意：10歳以上の女性 キャッチアップ接種 1997年4月2日から2006年4月1日生まれの女性 2022年4月から2025年3月の3年間で、HPVワクチン（2価・4価・9価）を定期接種可能  4価・9価ワクチン 定期（4価）（9価）： 小学校6年から高校1年女性 任意（4価）：9歳以上の男女 任意（9価）：9歳以上の女性
髄膜炎菌	①-②の間は8週以上あける	任意：2歳以上 (1)髄膜炎菌感染症流行地域へ渡航する人 (2)学校の寮などで集団生活を送る人、送る予定の人 (3)マスコギャザリングイベントに参加する人 (4)リスクのある患者（HIV感染症、補体欠損症、無脾症など）
A型肝炎	①-②の間は2-4週あける ①-③の間は20-24週以上あける	任意：全年齢接種可能（WHOは1歳以上を推奨） A型肝炎流行地へ渡航する人

